

# 令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢2 地域資源を活かした「産業のしま」	
政策2 農林業の振興	本文P76～79

基本方針	安心・安全で付加価値の高い農産物を地域で生産し、地域で消費する体制を確立するとともに、耕作放棄地の復元や合理的活用を図り、持続的な農業の振興に取り組みます。また、林業については、林業基盤の整備や森林のもつ公益的機能の維持・確保に努めます。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-2-① 農業従事者の育成・確保	担当課	農林課
-------------------	-----	-----

## 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○農業従事者確保のため、農業を始めたい方などへの新規就農相談会を年に2回(夏・冬)計画している。令和6年度は、計画通り新規就農相談会を町広報誌及び公式サイトで周知し開催した。</p> <p>○農業従事者育成のため、関係機関等と連携協力し、引き続き支援等を行った。</p>		
SDGsとの関係性	  	【選定理由】	農産物生産者を確保し地産地消を推進することで、地場産業と地域経済の確立、活性化を推進するため。
評価(問題点とその要因)	○新規就農相談会を計画どおり2回開催し、随時受付も行った。本年度は4名からの相談を受け付けたが、就農には至らなかった。今後も情報提供や開催案内の周知を行い、ひとりでも多く就農者確保に取り組む必要がある。		
今後の取組方針	○今後も年2回の新規就農相談会開催に加え、随時就農相談等を実施する。また、農業従事者に対し関係機関との連携協力により支援を継続しつつ、経営力向上等を目的とした研修会、講座等への参加経費の補助等に取り組んで行く。		

## 2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1 と し て	就農相談会の定期開催		回	2	2 1	2 2	2 2	2 2	2 2	100.0%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	農林課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	関係機関と連携して計画通り新規就農相談会を実施し、4名の就農相談を受け付けた。										A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取組み										R4
	①課題										A
	人口減や高齢化から担い手が不足しており、耕作放棄地や未相続農地も多い。農地については、不整形で狭いなど農作業の効率が悪い。ため、土地改良等による耕作効率の高い農地確保が必要。										R5
	②必要な取組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取組みを記載										A
	広報誌や公式サイトでの相談会の周知を継続的にを行い、関係機関と連携しながら就農希望者には帰省時だけでなく随時対応し、就農支援を行う。										R6
										A	

### 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○荒廃農地復元に係る経費の助成、販売用作物の施設化や土づくり対策等による品質の向上、共同販売を目的とする主要農作物の出荷経費の一部助成、地場野菜の販売や農産加工等、地域内供給を促進する団体への助成、病害防止のための圃場消毒への助成など、農地を有効使用し、農家の生産意欲の向上や増収を図るために助成を行っている。</p>		
SDGsとの関係性	 	<p><b>【選定理由】</b>                  持続的に農業を行い安定した収穫ができるよう、農家の生活と生産能力を向上させるため、農業や畜産などの食糧生産を支援し、安全な食糧確保に努める。</p>	
評価(問題点とその要因)	<p>○各種助成制度により、農家の意欲向上や増収につながっていると思われるが、年々助成額が減少してきており、その背景には、活動人数の減少に伴う団体の活動休止、高齢化に伴う作付面積の縮小や、離農者が増えていることがあげられる。</p>		
今後の取組方針	<p>○今後も必要な事業であることから、引き続き助成制度を継続していく。また、元気な世代を就農に積極的に取り込めるような仕組みづくりが必要であるため、助成のみの支援にとどまらず、農家の意欲向上のため、関係機関と連携し、農地の基盤整備を進めるほか、野菜作り講習会などを開催し、栽培技術の底上げを図っていく。</p>		

### 2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1	し	耕地面積	ha	207	207	207	207	207	207	94.2%	
					195	195	195	195	195		
	《成果指標の進捗状況》					担当課		農林課		R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った					各年度の評価					B
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	荒廃農地の復元による作付拡大を推進し、令和6年度は0.1265haを解消することができたが、就農者の高齢化が進み、新規就農者より離農者が増加傾向にあり、耕地面積の実績値が減少している。										B
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	①課題										B
	就農者の高齢化による作付面積の縮小や、新規就農者より離農者が著しく増加傾向にあることから、荒廃農地を復元し作付拡大を推進しつつ、離農者の農地を荒廃させない仕組みづくりが必要。										R5
	②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										B
新規就農者の確保や担い手の育成に向け、関係機関と連携を図り継続的に就農支援を実施する。					R6						
					B						

**2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価**

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	直売所会員数	単年度3人の増	人	155	161 158	164 148	167 145	170 144	173 126	0.0%
2 ★ 計画	《成果指標の進捗状況》				担当課	農林課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									C
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
	地域おこし協力隊による新規会員の勧誘及び出品のための運搬手段を持っていない方のため、集荷を行うとともに配送システム構築のための情報収集を行った。 JAが主催し、五島振興局、町が支援し、トウガラシ栽培講習会等を開催、とうがらし部会を中心に参加があり、また町農業振興協議会が主催して、かんしょ栽培講習会を開催。町内の生産者が参加した。 イノシシ・シカなどの有害鳥獣や基腐れ病などによる農作物の被害が多く、収穫量が減少したこと。また、会員の高齢化による離農や作付けの減少が会員数の減少に繋がっているものと思われる。									C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									R4
	<u>①課題</u>									C
	肥料や資材等の価格高騰のなか、生産者の収入増が問題であり、高齢化による離農や作付けの減少、後継者不足は問題である。また、イノシシ・シカによる農作物の被害対策や直売所への新規入会者の確保と集荷を引き続き検討する必要がある。 <u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載									R5
直売所新規会員を増加させるため、五島振興局、JAと連携し、野菜・果樹栽培講習会や相談会を開催し、入会の勧誘に引き続き努めていく。									C	
									R6	
									C	

### 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	○農作物の被害対策について、捕獲報奨金の交付や新規狩猟免許取得者に対し助成することで「捕獲」に対する取り組みを行い、電気柵やワイヤーメッシュ柵設置の助成をすることで「防護」に対する取り組みを行っている。
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>2 飢餓をゼロに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>17 パートナリシップで持続可能を実現しよう</p> </div> </div> <div style="margin-top: 5px;"> <p><b>【選定理由】</b> 有害鳥獣による農作物被害の軽減を図り、農家の生産能力と生産意欲の維持に努める。</p> </div>
評価(問題点とその要因)	○「捕獲」については、目標の捕獲頭数を超えているが、捕獲従事者の高齢化が著しく、若年層の従事者確保が必要である。「防護」については、経年劣化による防護柵の張替えが必要となっている。
今後の取組方針	○狩猟免許試験が実施される際には、広報等で周知を行い、捕獲従事者の確保に取り組んでいく。防護柵の張替えについては、広報等での周知に加え、直売所への出荷者や野菜講習会参加者に対し、助成制度の説明を行い、農作物被害の防止を図り、継続的な出荷や生産ができるよう取り組んでいく。

### 2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
	有害鳥獣捕獲頭数	過去の実績による推計	頭	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	100.0%	
					4,767	4,619	4,696	4,515	5,010		
1 し り と	《成果指標の進捗状況》				担当課	農林課				R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	有害鳥獣による農作物の被害の軽減も図られおり、捕獲数についてはほぼ横ばいであるが、生態系と捕獲事業が均衡を保っていると思われるので、今後も引き続き有害鳥獣の捕獲が必要である。 有害鳥獣捕獲頭数については目標値を上回っている。										A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	①課題										A
	鳥獣被害防止対策には、捕獲従事者の確保や捕獲技術の向上が不可欠であり、また、地域の被害状況を把握し、補助金等を活用した防護柵等の設置が必要。										R5
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										A	
捕獲従事者は、令和5年度の82名から令和6年度の82名と同数となっている。今後も捕獲従事者の確保が必要となるため、新規狩猟免許取得に伴う経費などの補助事業について周知を図っていく。										R6	
										A	

### 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	○関係機関と連携し、高能力繁殖雌牛群の整備、高付加価値の肉用子牛の生産、収益性の高い肉用牛経営の確立に対する支援を行っている。
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>2 飢餓をゼロに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> </div> </div> <p>【選定理由】 持続的に農業(畜産)を行い、安定した収入が得られるよう畜産農家の生活と生産能力を向上させるため、農業や畜産などの食糧生産を支援し、安全な食糧確保に努める。</p>
評価(問題点とその要因)	子牛価格の大幅な下落、飼料価格の高騰などによる生産基盤の弱体化が懸念される。 農家戸数(R5:6戸→R6:6戸) 出生頭数(R5:73頭→R6:76頭) セリ市平均価格(R5:450千円→R6:450千円)
今後の取組方針	国・県及び町単独の補助事業などを活用しながら、各畜産農家における収益性の高い肉用牛経営の確立と高能力の繁殖雌牛の増頭に努めていく。

### 2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移					達成率	
					上段:目標値/下段:実績値						
					R2	R3	R4	R5	R6		
	家畜市場への子牛出荷頭数	繁殖雌牛頭数×0.7(出生率)	頭	77	91 61	95 71	98 68	102 73	105 68	0.0%	
1 ★ し し と	《成果指標の進捗状況》				担当課		農林課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	病気等の早期発見による診療や、関係機関による経営診断等を行ってきたが、子牛の死亡事故や子牛価格の低迷などにより目標値を下回ってしまった。										C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	<u>①課題</u>										C
雌牛の高齢化が進んでいるため、雌牛の入れ替えが必要であるが、導入費用や維持管理費用の問題もあり増頭が進まない状況にある。										R5	
<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										C	
各種補助事業や自家保留等により定期的な雌牛の入れ替えを行うことで出生頭数の増加を促していく。										R6	
										C	

### 2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	繁殖雌牛頭数	単年度5頭の増	頭	125	130 118	135 105	140 110	145 105	150 106	0.0%
2 ★ しごと	《成果指標の進捗状況》				担当課	農林課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									C
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
	補助事業を活用し増頭を行ったが、導入後の経費の問題などがあり目標頭数を下回った。									C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取組み									R4
	<u>①課題</u>									C
	飼料価格の高騰などによる経費負担が増えたことにより、生産基盤の弱体化が懸念される。									R5
<u>②必要な取組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取組みを記載									C	
繁殖雌牛の増頭のため、畜産農家の経営状況の把握に努め、各種支援制度の周知活動を行いながら生産力の強化に繋げていく。									R6	
									C	

各年度の評価

### 1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	○新上五島町森林経営計画に基づき、町有地において利用間伐を行い、人工林の成長を促し、かつ森林保全に努めている。
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>【選定理由】</b> 森林の公益的機能を保ちながら木材資源を持続的に利用するために、適正な管理のもと、持続可能な森林経営を図る。</p> </div> </div>
評価(問題点とその要因)	○森林整備には積極的に取り組まなければならないものの林業の担い手が不足している。その要因としては、本町には林業事業者が森林組合1者しかおらず、多くの事業者は建設業者であり、林業の経験がほとんどないうえに、本業である建設工事の受注が多いことから、効率性や採算性の問題からも林業参入に躊躇しているものと考えられる。
今後の取組方針	○町有地だけでなく私有地や、県営林、林業公社の経営林も含めた一体的な整備を実施し効率的な林業経営を行う。また、未整備の私有林においても町が経営管理を行い、森林の環境整備と保全に努めていく。

### 2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30基準値	実績値の推移					達成率	
					上段:目標値/下段:実績値						
					R2	R3	R4	R5	R6		
	利用間伐面積		ha	0	30 17	40 20	40 17	40 18	40 17	42.5%	
1 ★ し こ と	《成果指標の進捗状況》				担当課	農林課				R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	森林経営計画を策定し伐採計画を立て利用間伐を行った(17.23ha)。町有林のみを考えた場合、目標値としては下回っているが、私有地、県営林、林業公社の経営林も含めた一体的な整備を実施しており、管内全体の森林整備としては向上している。										C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	①課題										C
	林業事業者、林業従事者の不足が大きな課題であるが、一朝一夕で解決する問題ではない。										R5
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										C	
各種補助事業を活用し、担い手不足問題に取り組んでいく。										R6	
										C	

### 2次評価委員会からの評価・意見等

農畜産業は、地域内循環型体制である地産地消を確立するために必要な産業で、担い手確保・育成や耕作放棄地解消など様々な課題があるが、自立したしま実現に向けて引き続き取り組む必要がある。国県の支援策を活用しながら、課題解決に努め農畜産業の振興を図る必要がある。林業についても、島内資源の有効活用と、健全な森林育成による防災機能の向上、環境負荷の軽減など林業の振興に取り組んでいく必要がある。